

第2期清流の国ぎふ森林・環境基金事業の総括評価(H29～R3)

施策の区分: I 100年先の森林づくりの推進

①事業名		1-1 環境保全林整備事業						
②事業目的		水源林、溪畔林、奥山林等における環境を重視した森林づくり						
③5年間の目標値		森林整備面積					13,000ha	
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	13,000	71%
	実績値	1,725	1,615	2,022	1,713	2,146	9,221	
⑤自己評価		○ 災害に大きく影響される事業であるため、毎年のように発生した災害等(H29:秋雨前線や台風、大雪、H30:7月豪雨、台風21号、R1:夏場の長雨、R2:7月豪雨、大雪)により、施業の遅延や労力の確保ができなかったことにより、実績は計画の71%に留まった。 一方、平成30年度事業分から事業実施期間の平準化を図り、労働力に余力のある3月から5月頃にかけての事業拡充を実施することができた。						
⑥課題等		第2期期間中に実施できなかった約3,700haを含め、県内には、依然として早期(5年以内)に間伐の実施が必要な森林が約10,500ha存在している。						

①事業名		1-2 100年先の森林づくり普及推進事業						
②事業目的		人工林を早期に針広混交林に誘導するための施業方法等の調査・検証						
③5年間の目標値		試験区設置					2.90ha	
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	2.42	0.48	-	-	-	2.90	96%
	実績値	2.42	0.35	-	-	-	2.77	
⑤自己評価		◎ 第2期期間中に、計画の96%の試験区を設置することができた。 ・H29:【環境保全林調査区】揖斐川町(0.24ha)、【観光景観林調査区】高山市(2.18ha) ・H30:【環境保全林調査区】八百津町(0.12ha)、中津川市(0.12ha)、高山市(0.11ha) 設置した試験区内において、森林研究所により、光条件や侵入した高木性種の動態についてのデータの収集等の調査を実施した。						
⑥課題等		継続してデータの収集及び調査を行うとともに、収集したデータを解析し、早期に針広混交林に誘導するための間伐方法等の検証を行う必要がある。						

施策の区分: I 100年先の森林づくりの推進

①事業名		2 水源林公有林化支援・推進事業						
②事業目的		水源林の適正な保全・管理のための市町村による公有林化の支援						
③5年間の目標値		公有林化面積			100ha			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	20	20	20	20	20	100	74%
	実績値	18	10	18	14	14	74	
⑤自己評価		<p>○</p> <p>水源地域の関係市町村に対する事業説明など周知に取り組んだことにより、3町村(白川町、八百津町、東白川村)において水源林の公有林化が進み、74%の実績となった。 市町村が森林の管理者となったことにより水源地域における水源涵養などの公益的機能が確保が図られた。</p>						
⑥課題等		<p>今後は、市町村の自主性や機動性を生かすため、国の森林環境譲与税を活用した公有林化についても検討を行う。</p>						

①事業名		3 里山林整備事業、4 森林地域外危険木除去事業						
②事業目的		生活環境の保全や生物多様性の保全のための里山林整備						
③5年間の目標値		森林整備面積(a)			3,250ha			
		危険木除去実施箇所(b)			200箇所			
		森林地域外危険木除去実施箇所(c)			50箇所			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	650	650	650	650	650	3,250	49%
	実績値(a)	318	320	306	310	350	1,604	
	計画値(b)	40	40	40	40	40	200	216%
	実績値(b)	92	116	82	66	75	431	
	計画値(c)	10	10	10	10	10	50	26%
実績値(c)	2	0	2	3	6	13		
⑤自己評価		<p>○</p> <p>実績見込みは計画に対し、森林整備は49%、危険木除去実施箇所は216%、森林地域外危険木除去箇所は26%となった。 森林整備面積が計画を達成できなかったのは、近年、地域の要望が里山の間伐から1箇所あたりの面積が小さく事業費が高い危険木の除去へシフトしているためである。令和元年度事業より危険木の除去に係る「危険木」や「保全対象」等の定義を明確にしたことにより、箇所数は減少傾向にあるが、民家裏等での事業が増えたため、高所作業車の利用等により、事業費は増加傾向にある。 一方、事業実施後の住民アンケートでは、毎年9割以上が「とてもよかった」「よかった」と回答しており、地域ニーズに応じた森林整備が実施できている。</p>						
⑥課題等		<p>毎年、予算額以上の要望がある。また、市町村アンケートや住民アンケートでも事業継続を希望する回答が多い。</p>						

施策の区分: I 100年先の森林づくりの推進

①事業名		5 観光景観林整備事業						
②事業目的		観光資源の価値を高めるための観光道路沿いの森林整備						
③5年間の目標値		森林整備面積			350ha			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	70	70	70	70	70	350	167%
	実績値	97	195	135	75	84	586	
⑤自己評価	◎	<p>第2期からの新規事業であるが、市町村からのニーズも高く11市町村(本巢市、海津市、養老町、垂井町、郡上市、白川町、瑞浪市、中津川市、恵那市、高山市、白川村)で実施され、計画に対し167%の実績となった。</p> <p>地域住民からも景観が良くなり、「とてもよくなった」との意見が多く寄せられている。</p>						
⑥課題等		県内の観光道路等に近接する森林には依然として未整備の箇所がある。						

施策の区分：Ⅱ 自然生態系の保全と再生

①事業名		6-1 野生鳥獣保護管理推進事業(ニホンジカ・イノシシの捕獲推進)						
②事業目的		生活環境等への被害軽減のための野生鳥獣の個体群管理						
③5年間の目標値		ニホンジカ(a)			37,500頭			
		イノシシ(b)			1,000頭			
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	37,500	78%
	実績値(a)	5,394	4,437	5,206	6,600	7,500	29,137	
	計画値(b)	200	200	200	200	200	1,000	213%
	実績値(b)	65	292	1,574	0	200	2,131	
⑤自己評価	◎	ニホンジカについては、捕獲計画数に比べ78%となった。その要因としては、生息状況の変化や過去の年間捕獲数の増加に伴い、冬季の捕獲数が計画数を下回ったことが考えられる。 イノシシについては、捕獲計画数に比べて213%となった。その要因としては、豚熱の発生後に捕獲体制を強化したことが考えられる。 事業の成果として、ニホンジカ及びイノシシの農作物被害額を軽減させる効果が得られた。						
⑥課題等		農作物被害額の約半分をニホンジカ及びイノシシ被害が占めていることから、更なる個体群の管理が必要である。						

①事業名		6-2 野生鳥獣保護管理推進事業(カワウ等対策)						
②事業目的		漁業被害の軽減等のためのカワウ等の被害対策活動支援						
③5年間の目標値		カワウ等			3,200羽			
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	600	600	600	700	700	3,200	124%
	実績値	895	660	838	884	700	3,977	
⑤自己評価	◎	捕獲羽数は、目標を上回る124%となった。 実施主体である漁業協同組合や市町村鳥獣被害対策協議会が漁業被害を重く受け止め、効果的な対策を行ったためであると思われる。						
⑥課題等		近隣県からの流入や期別の生息状況の把握に努めるとともに、漁協ごとの被害状況や対策方法が異なるため、すべての団体が効率的な対策ができるような調整が必要である。						

施策の区分: II 自然生態系の保全と再生

①事業名		7 野生鳥獣保護管理推進事業(市町村職員の育成)						
②事業目的		有害鳥獣捕獲従事者の減少に対応するための体制づくり						
③5年間の目標値		育成人数				30人		
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	6	6	6	6	6	30	43%
	実績値	4	3	2	1	3	13	
⑤自己評価		<p>×</p> <p>第2期の実績見込みは、育成計画数に比べ43%となった。その要因としては、豚熱の発生及び新型コロナウイルス対応に伴う業務の繁忙、猟銃を所持することに対する同居家族等の同意が得られないことなどが考えられる。計画値には達成していないが、市町村職員における野生鳥獣の捕獲体制に貢献できた。</p>						
⑥課題等		有害鳥獣捕獲従事者は依然として減少傾向にあるため、市町村職員及び他の人材を活用した捕獲体制整備が必要である。						

①事業名		8 野生動物総合対策普及推進事業						
②事業目的		野生鳥獣対策に係る科学的研究と人材育成						
③5年間の目標値		講習会等の参加者数				2,500人		
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	500	500	500	500	500	2,500	196%
	実績値	1,458	1,042	1,102	810	500	4,912	
⑤自己評価		<p>◎</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し196%となった。その要因としては、農林業従事者、市町村行政担当者等の野生鳥獣被害対策に関する知識、技術に関する要望が大きいことに加え、積極的な普及啓発活動も効果的であったと考えられる。また、一般県民を対象とし、生物多様性保全の視点から野生動物の生息や管理に関する講座を開催し、その重要性について伝えることができた。さらに、イノシシ・ニホンジカの生息調査や密度推定、ニホンカモシカの被害対策等の研究成果は、県の豚熱対策や第二種特定鳥獣管理計画の策定における基礎資料となった。また、市町村の鳥獣被害対策について調査協力、技術指導などを実施しており、本県の鳥獣被害対策の重要なシンクタンクとして役割を果たしている。</p>						
⑥課題等		<p>野生鳥獣被害対策に関わる人材育成に対する講習会等の成果として、農林業被害は減少してきているが依然として被害があり、市町村等では専門職員の不在や人事異動もあって野生動物への誤った対応がまだ散見されることから、引き続き鳥獣被害対策に従事する人材の教育、育成を行っていく必要がある。</p> <p>また、ツキノワグマ、ニホンカモシカの人里への出没による人身事故も発生し、ニホンザル被害が再び増加傾向にあるなど、野生鳥獣と人との軋轢も継続しており、今後も野生鳥獣を適正に管理していくための専門的調査・分析・研究が求められている。</p>						

施策の区分: II 自然生態系の保全と再生

①事業名		9 流域協働による効率的な河川清掃事業						
②事業目的		流域ごとの河川清掃モデルの確立と県民の河川環境保全意識の向上						
③5年間の目標値		清掃活動実施河川			73河川			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	53	58	63	68	73	73	100%
	実績値	51	51	61	68	73	73	
⑤自己評価		◎ 第2期の実績見込みは、計画に対し100%となった。 NPO等と県が協働・連携し、流域全体で清掃活動を行うことにより、 県民の河川環境保全意識が向上した。						
⑥課題等		例年予算額を上回る要望があるうえ、事業の実施が、協働して保全活動を行う団体の意識高揚に繋がっている。						

①事業名		10 生きものにぎわうため池再生事業						
②事業目的		里地の生態系の保全を図るモデル的な取組みの推進						
③5年間の目標値		実施箇所			15箇所			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	3	3	3	3	3	15	113%
	実績値	4	4	3	3	3	17	
⑤自己評価		◎ 地元関係者等との調整を図り、計画以上の事業実施ができた。 外来種駆除活動では、地元関係者の参加も多く、環境保全の普及啓 発効果も高いことが確認できた。						
⑥課題等		他事業でも同様の取組みを実施するようになるなど、モデル的な取 組みを推進するという、当事業の目的を十分に達成できた。						

施策の区分：Ⅱ 自然生態系の保全と再生

①事業名		11 水田魚道設置推進事業						
②事業目的		水田魚道設置促進による、環境意識の高揚や環境保全型農業の発展						
③5年間の目標値		研修会の開催箇所			5地区			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	1	1	1	1	1	5	120%
	実績値	1	1	2	1	1	6	
⑤自己評価		◎ 第2期の実績見込みは計画に対し120%となった。 県として主体的に設置候補地を検討し、丁寧に地元への説明を行ったことが実績につながったものとする。 研修会を開催した地区では、水田魚道を設置しており、設置後の調査を継続して行う中で、多くの魚種の水田魚道を活用した遡上・降下や、水田内での産卵・増殖が確認できた。						
⑥課題等		今後も、継続して効果検証を実施するとともに、新規地区での水田魚道設置を推進していく必要がある。						

①事業名		12 生態系保全団体支援事業						
②事業目的		里地における生態系保全を推進するための、モデル的な取組みの支援						
③5年間の目標値		実施団体			25団体			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	5	5	5	5	5	25	136%
	実績値	7	7	7	6	7	34	
⑤自己評価		◎ 第2期の実績見込みは計画に対し136%となった。 他に生態系保全活動に対して幅広く支援できる事業は少なく、各採択団体が、希少性生物の保護や、耕作放棄地の解消による景観保全など、様々な方法で生態系保全活動を実施できた。						
⑥課題等		今後は、団体が実施する生態系保全活動の横展開を図る必要がある。						

施策の区分：Ⅱ 自然生態系の保全と再生

①事業名		13 生態系保全市町村支援事業						
②事業目的		里地における生態系保全を推進するための、モデル的な取組みの支援						
③5年間の目標値		実施市町村			30市町村			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	6	6	6	6	6	30	127%
	実績値	7	7	7	8	9	38	
⑤自己評価	◎	第2期の実績見込みは計画に対し127%となった。 ジャンボタニシの生息域が拡大しており、本事業のニーズが増していることが実績につながったものとする。 事業を実施することで、農地・農業用施設に生息するジャンボタニシ等が駆除された。						
⑥課題等		依然としてジャンボタニシ等外来種は生息域を拡大している状況である。他事業との組み合わせた取組みの推進や、効率の高い駆除方法の推進が必要である。						

①事業名		14-1 河川魚道の機能回復事業						
②事業目的		魚がすみやすい環境の創出のための魚道の状態把握と維持管理						
③5年間の目標値		健全な魚道			80%			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	80	80	80	80	80	80	100%
	実績値	91	83	85	87	80	80	
⑤自己評価	◎	第2期の実績見込みは、計画に対し100%となった。 フィッシュウェイサポーターと協働で点検を行い、維持修繕が必要とされた魚道について対策を行い、機能回復を図ることができた。						
⑥課題等		近年の激甚化・頻発化する豪雨災害により県管理河川及び砂防施設に設置してある魚道が機能不全に陥る要因は増加している。						

施策の区分: II 自然生態系の保全と再生

①事業名		14-2 河川魚道の機能回復事業						
②事業目的		魚が住みやすい環境を創出するための河川の連続性の確保						
③5年間の目標値		工事(a)			6箇所			
		設計(b)			6箇所			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	-	0	2	2	2	6	83%
	実績値(a)	-	0	0	3	2	5	
	計画値(b)	-	4	0	2	0	6	83%
実績値(b)	-	4	0	1	0	5		
⑤自己評価	○	<p>第2期の実績見込みは計画に対し約83%となった。 その要因は、頭首工管理者が土砂撤去等の対応を行ったことにより、機能回復が必要な魚道が6箇所から5箇所に減ったためである。 事業の成果として、魚道改修前後に魚類の遡上評価を実施し、改修により遡上率が改善したことを確認した。また、地元漁業者からは「非常に良くなった。この魚道ならば魚が遡上できる」との声をいただいております、魚道機能を向上させることができました。</p>						
⑥課題等		<p>第2期期間中に、機能回復が必要な魚道を全て改修した。今後は、「清流の国ぎふ・魚道カルテ」に基づき、定期的に点検を行い、適切に魚道を管理する。</p>						

①事業名		15 用排水路・河川落差解消支援事業						
②事業目的		水みちの連続性による農業用排水路における魚類の繁殖、生息空間の再生						
③5年間の目標値		落差解消地区			5地区			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	1	1	1	1	1	5	100%
	実績値	0	1	0	3	1	5	
⑤自己評価	◎	<p>計画した5地区すべてで落差解消工事が終了する予定である。 また効果検証において魚類の増加が見られ、落差解消の効果が認められた。</p>						
⑥課題等		<p>事業期間内に、当事業の目的を十分に達成できた。</p>						

施策の区分:Ⅲ ぎふの豊かな森林・水を活かした環境にやさしい社会づくり

①事業名		16 木質バイオマス利用施設導入促進事業						
②事業目的		森林内の未利用材の利用促進による、環境にやさしい低炭素循環型社会の構築						
③5年間の目標値		ボイラー(a)			5施設			
		ストーブ(b)			100台			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	1	1	1	1	1	5	100%
	実績値(a)	0	1	1	1	2	5	
	計画値(b)	20	20	20	20	20	100	208%
	実績値(b)	58	26	20	71	33	208	
⑤自己評価	◎	<p>第2期の実績見込みは計画に対し、ボイラーは100%、ストーブは208%となった。</p> <p>販売店や外部主催フォーラムでの事業説明などのPR活動により、観光農園や宿泊施設等へ小規模なボイラーの導入が進んだことや、公共施設以外に飲食店や宿泊施設等の多数の商業施設へストーブが導入されたことが要因として考えられる。</p> <p>事業の活用により、地域の森林資源を薪等で有効利用し地域経済の好循環に取り組み動きにつながった。</p>						
⑥課題等		脱炭素社会実現に向け、さらに、地域の森林資源の有効利用と化石燃料から木質燃料への転換を誘導することが必要である。						

①事業名		17 小水力発電による環境保全推進事業						
②事業目的		環境負荷の低いエネルギーシステムの普及・啓発						
③5年間の目標値		実施施設			15施設			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	3	3	3	3	3	15	47%
	実績値	1	0	0	2	4	7	
⑤自己評価	×	<p>第2期の実績見込みは計画に対し約47%となった。</p> <p>その要因として、発電施設設置に伴う河川法等の手續に時間を要することや、施設に対する維持管理が負担になっていることが考えられる。</p> <p>事業の成果として、7地区(R3年度中の実施見込3地区を含む)の地元小学生や地元住民等に対して、環境学習を通じて環境保全や再生可能エネルギーの重要性の啓発普及を行い、結果として、実施地区のうち2地区においては、本事業実施後に地元で本格的な施設整備の機運が上がり、200~300kW級(300~440世帯分に相当)の発電所の設置が進められている。</p> <p>第2期期間中の実施施設数については、目標達成できなかったものの、実際の発電所設置に結び付いた事例が2例あり、「環境負荷の低い再生可能エネルギーシステムの普及・啓発」という目的についてはある程度の成果が得られた。</p>						
⑥課題等		施設の設置に伴う維持管理負担が課題となっている一方、再生可能エネルギーの普及・啓発は引き続き進める必要がある。						

施策の区分:Ⅳ 人づくり・仕組みづくり

①事業名		18木の香る快適な公共施設等整備事業						
②事業目的		木材利用や環境保全に対する理解醸成のための教育福祉関連施設の木造化等の促進						
③5年間の目標値		整備施設			45施設			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	9	9	9	9	9	45	67%
	実績値	7	7	6	5	5	30	
⑤自己評価		<p>△</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し、67%となった。 その要因として、要望した市町村や社会福祉法人等が施設整備に利用する関係省庁の整備交付金等の不採択により、計画の中止や延期になるなどにより、毎年事業取下げがあることが原因である。 事業の成果として、県産材の公共施設での利用推進による需要拡大、木材利用や環境保全の啓発を行うことができた。</p>						
⑥課題等		木材はCO ₂ を長期間固定するなど、脱炭素社会に貢献するため、普及啓発効果の高い、教育福祉関連施設での利用を進めていく必要がある。						

①事業名		19ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業						
②事業目的		木材利用や環境保全に対する理解醸成のための教育福祉関連施設の木製品の導入促進						
③5年間の目標値		導入木製品(a)			6,000セット・個			
		導入施設(常設木育ひろば)(b)			60施設			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	6,000	112%
	実績値(a)	1,375	1,999	1,382	866	1,076	6,698	
	計画値(b)	20	20	20	-	-	60	108%
実績値(b)	20	19	24	-	2	65		
⑤自己評価		<p>◎</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し、導入木製品数は112%、導入施設数(常設木育ひろば)は108%となった。 ・導入木製品 関市、中津川市、高山市では、毎年継続的に市内の学校に学童机・椅子を導入していることや、学校法人等民間施設でも木製品導入が進んだことが考えられる。 ・導入施設 市町村や社会福祉法人等への導入キャラバン活動により、木育ひろばの設置が進んだことが考えられる。 事業の成果として、教育福祉関連施設で子ども達が県産材で作られた木製品を利用することで子供たちや保護者等に対して木の良さや環境保全の啓発を行うことができた。</p>						
⑥課題等		教育福祉関連施設では木材利用への関心が高く、また子どもが日常で触れることによる普及啓発効果が高い。						

施策の区分:Ⅳ 人づくり・仕組みづくり

①事業名		20 県民協働による未利用材の搬出促進事業						
②事業目的		森林内の未利用材の利用促進による、環境にやさしい低炭素循環型社会の構築						
③5年間の目標値		搬出量			20,600t			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	4,000	4,000	4,000	4,200	4,400	20,600	97%
	実績値	3,073	4,103	4,266	4,300	4,200	19,942	
⑤自己評価	◎	<p>第2期の実績見込みは計画に対し、97%となった。 初年度は計画を下回ったが、事業説明会や研修会の実施等により、団体数、搬出量とも増加し、H30からR2年度までは計画量以上の搬出を行うことができた。 薪ボイラー等の木質資源利用ボイラーや木質バイオマス発電施設向けの燃料として、温浴施設や観光農園、チップ工場等へ出荷され、未利用材の有効利用に取り組む動きにつながった。</p>						
⑥課題等		地域の森林整備と未利用材の利用促進のため、引き続き市町村と協力して未利用材の搬出活動に対して支援することが必要である。						

①事業名		21 ぎふの木育拠点整備等事業						
②事業目的		「ぎふ木育」の取組みを進めるための常設の木育拠点の整備及び運営						
③5年間の目標値		施設整備(a)			1施設			
		入場者数(b)			50,000人			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	-	-	1	-	-	1	100%
	実績値(a)	-	-	1	-	-	1	
	計画値(b)	-	-	-	20,000	30,000	50,000	101%
実績値(b)	-	-	-	20,351	30,000	50,351		
⑤自己評価	◎	<p>第2期の実績見込みは、計画に対し101%となった 令和2年3月に竣工し、新型コロナの影響で開館を令和2年4月から7月へ延期したが、来館者アンケートによると、「満足」、「やや満足」が全体の96%と好評を得ており、また、新型コロナ感染症対策の徹底により安心感をもってご入館いただけている。</p>						
⑥課題等		今後もぎふ木育の推進のため、継続的な運営が必要である。						

施策の区分:Ⅳ 人づくり・仕組みづくり

①事業名		22 ぎふの木育教材導入支援事業						
②事業目的		木製学習教材等の導入支援による、「ぎふ木育」の取組みの推進						
③5年間の目標値		導入施設			300施設			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	60	60	60	60	60	300	94%
	実績値	52	60	63	48	60	283	
⑤自己評価		◎ 第2期の実績見込みは、ほぼ計画どおりの94%となった。 チラシ配布や県HPなどによる周知などが実績につながったものと考えられる。						
⑥課題等		地域により導入実績にばらつきがみられる中、「ぎふ木育」を県内全域に普及するため、さらなる事業の推進が必要である。						

①事業名		23 森と木と水の環境教育推進事業						
②事業目的		将来の清流の国ぎふを担う人づくりのため、子ども達を対象とした環境教育の実施						
③5年間の目標値		新規実施校(園)の参加者数(a)			5,000人			
		養成研修参加者数(b)			400人			
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値(a)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000	103%
	実績値(a)	1,069	1,548	811	709	1,000	5,137	
	計画値(b)	80	80	80	80	80	400	95%
実績値(b)	88	71	76	66	80	381		
⑤自己評価		◎ 第2期の実績見込みは、計画に対し、それぞれ103%、95%となった。 新規実施校の参加者については、幼稚園や保育園、学校等の関係機関へのチラシ配布や、「ぎふ木育」の取組みについて普及啓発を行った結果、実績につながったものと考えられる。 養成研修参加者数については、「ぎふ木育」について理解を深め、実践に生かすことができるよう、研修内容を工夫したことが実績につながったものと考えられる。						
⑥課題等		緑と水のこども会議やぎふ木育教室の実施報告書から、この事業が自然体験活動の動機づけになっていることや事業継続への期待の高さが伺われる。地域により取組み実績にばらつきがみられる中、「ぎふ木育」を県内全域に普及するため、さらなる事業の推進が必要である。						

施策の区分:Ⅳ 人づくり・仕組みづくり

①事業名		24 清流の国ぎふ森林・環境税事業推進事業						
②事業目的		森林・環境税事業の透明性確保のための第三者機関の設置等						
③5年間の目標値		審議会			15回			
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	3	3	3	3	3	15	100%
	実績値	3	3	3	3	3	15	
⑤自己評価		<p>-</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し100%となった。 清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会からいただく、各施策の取組みへの意見や提案、事業実施後の評価が、事業内容の改善等につながっている。</p>						
⑥課題等		森林・環境税の各種事業の事業過程の透明性の確保等に向け、第三者機関による評価等が必要である。						

①事業名		25 上流域と下流域の交流事業						
②事業目的		上下流域での自然体験活動等による交流を通じた人材育成						
③5年間の目標値		ツアー実施回数			75回			
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	15	15	15	15	15	75	97%
	実績値	16	16	17	9	15	73	
⑤自己評価		<p>◎</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し97%となった。 その要因として、令和2年度において新型コロナウイルス感染拡大のためツアー実施数が減少したためと考えられる。 事業の成果として、毎年行っているツアー後のアンケート調査では、7割以上の参加者が「環境保全の意識が高まった」と回答しており、親子の環境保全意識の醸成の一助となったと考えられる。</p>						
⑥課題等		<p>第6次環境基本計画(R3年3月策定)において、「体験を重視した環境教育の充実」を取組として掲げていることから、次代を担う子どもたちが「森・里・川・海のつながり」について理解を深め、自然と積極的にかかわる姿勢や環境保全意識の醸成を図るための機会を提供することは重要であり、当事業に対する評価も高い。しかし、同計画の基本施策「未来につなぐ人づくりとライフスタイルの変容」を実現させるには、環境問題に積極的な企業など様々な主体との連携が少なく、交流先の拡充が必要である。</p>						

施策の区分:Ⅳ 人づくり・仕組みづくり

①事業名		26 生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業						
②事業目的		多様な主体が生物多様性の保全・再生について自ら行動していく社会づくり						
③5年間の目標値		普及啓発実施回数			30回			
④計画値及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	6	6	6	6	6	30	200%
	実績値	22	17	9	6	6	60	
⑤自己評価		<p>◎</p> <p>第2期の実績見込みは計画に対し200%となった。 その要因として、イタセンパラの絶滅を防ぐための生息域外保全技術の研究と地域固有の生物を環境学習のテーマとして取り上げる取組みのスタイルが、普及啓発の実施回数の増加につながったものと考えられる。 事業の成果として、講習会やシンポジウムに参加した小学生や一般県民にこうした具体的事例を通して生物多様性についてより理解を深めてもらうことができ、それぞれの地域における保全活動等の参考となった。</p>						
⑥課題等		<p>イタセンパラの研究と保護という実例による地域の保全活動や、教育現場における環境学習のあり方として先導的で参考となった。 イタセンパラの保護についてはまだ研究途上であり、普及も含めて今後も継続が望まれるが、今後は当該事業で得られた成果をふまえ、他の地域や生物種についても保全等の取組みを取り上げ、県民に生物多様性の保全の重要性を普及啓発することが必要である。</p>						

施策の区分：Ⅰ～Ⅳ共通施策(地域のニーズに基づいた環境保全活動の促進)

①事業名		27 清流の国ぎふ地域活動支援事業						
②事業目的		森や川づくりの重要性の理解と関心を高め、社会全体で支える環境保全活動の促進						
③5年間の目標値		採択件数				200件		
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	40	40	40	40	40	200	139%
	実績値	56	57	54	49	62	278	
⑤自己評価	◎	<p>第2期の実績見込みは計画に対し128%となった。 その要因として、事業募集に係る説明会の開催や、清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口によるきめ細やかなサポートにより、毎年新規団体による事業につながっていることが考えられる。 また、団体が実施する多種多様な森づくり、川づくり活動に、H29からR2までの4年間で延べ8万人以上の県民が参加しており、県民参加による環境保全活動の促進につながった。</p>						
⑥課題等		<p>地域住民が環境保全に向け主体的に取り組んでいるものであり、県が支援する必要性が高い。 清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会からも、「森林・環境基金事業の機動力を高めている事業である。」との評価を得ている。</p>						

①事業名		28 清流の国ぎふ市町村提案事業						
②事業目的		森林・環境税の4つの施策区分を効果的に推進するための市町村支援						
③5年間の目標値		採択件数				190件		
④計画値 及び実績値	年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	計	達成状況(見込)
	計画値	50	50	50	20	20	190	83%
	実績値	44	44	45	15	9	157	
⑤自己評価	○	<p>第2期の実績見込みは計画に対し83%となった。 計画値未達成の要因として第1期からの継続的な事業実施により地域課題が解決されつつあることや、令和2年度事業より、各市町村における総合戦略、基本方針等に基づいた体系的な事業であることや、県重要施策との親和性の高い事業を採択する方針とし、補助金額の上限及び下限の引き上げを行ったことなどが、提案数の減少の要因であると考えられる。 提案数は減少したが提案のあった事業は、他市町村の実施事例を参考にした事業や、地域団体と連携して取り組む事業など、内容の拡充が図られ、地域課題の解決に貢献した。</p>						
⑥課題等		<p>木育や環境教育の実施、外来生物の駆除など、事業内容の固定化がみられる。</p>						